

PARE活動報告

自然エネルギー100%と私たちの暮らし

2月15日（土）にクレオ大阪中央で「自然エネルギー100%と私たちの暮らし」と題して、（一財）環境事業協会主催(PARE・CASA 協力)の講演会が開催されました。講師は、気候ネットワークの豊田陽介さん（PARE 運営委員）が行ないました。この講演会は、これから自然（再生可能）エネルギーについて学んでいきたいと思っている市民を対象とした企画です。



講師：豊田さん

当日は、豊田さんの講演の後、ワークショップを行ない、講演の内容を深め、さらに聞いてみたいことを質問するという形式ですすめられました。

まず、豊田さんから、自然エネルギーが広がる背景（パリ協定の発効と地球温暖化の状況）、自然エネルギーの特徴とその内容、再生可能エネルギーの世界の動きと日本の状況、RE100をはじめとする企業の動きと逆行する日本のエネルギー政策、日本でも自然エネルギー100%は可能、温暖化対策と生活の質の向上、地域のエネルギー自立のメリットなどについて話されました。そして、市民共同発電など、地域で自分たちが発電所を作ることができることや、ベランダ発電

やペレットストーブなど個人で取り入れられることなどが紹介されました。またぜひ取り組んでほしいこととして、再エネ比率の高い電力会社への切り替えを提案されました。世界で自然エネルギー100%に向けた動きが加速している中、企業や地域も変わり始めており、私たち市民も自分たちにできることを考えて行動してほしいと訴えました。今回、参加者約30名の内、再エネ比率の高い電力会社に切り替えていたのは3名、約10%でした。電力自由化が始まり、もう少しで4年が経過しますが、電力会社はいつでも簡単に変えられることをより多くの人に知らせていく必要があると感じました。

休憩を挟み、6つのグループに分かれてワークショップを実施しました。私が参加したグループの方々には「太陽光発電は自宅の屋根に付けているので、次は出資をしようと思う」「太陽光発電を終えて処分する時に有害物質など出ないのか心配」「実家のある田舎が人口減少して過疎が進んでいる。再生可能エネルギーなどで地域を活性化させたいが、どうすればそれができるのだろうか」などの意見が出されていました。短時間のワークショップでしたが、講演の感想や、更に知りたい内容などについて活発な意見交換がされ、日本のエネルギー政策の問題点、COPの離脱を宣言しているアメリカの動き、水素発電やCCSの技術的なこと、石炭火力についての意見や質問など多岐にわたり出されました。



ワークショップの様子

また、複数名の方から、社会問題化しているメガソーラーや風力発電の開発による自然破壊への懸念の声が出されました。例えば「自然エネルギーは良いものだと思うが、それを建設して森林伐採や動植物への影響があるなら、自然エネルギーの導入については賛成できない」というものでした。これに対し豊田さんからは、大型開

発には環境アセスメントが必要であることや、法整備の問題点、ゾーニングを計画的に行なっておく必要があること、そして、自然破壊をしなくても建物の屋上や壁面など設置場所はたくさんあることが説明されました。

今回参加いただいた方には、自然エネルギーの発電所は、その立地地域のもので、環境保全だけでなく、地域社会に新たな産業や雇用を生み出し、地域の自立にもつながること、そして何より温暖化防止の有効な手段の一つであること、また自分たちがどのように関わることができるのかを理解いただけたのではないかと思います。

(島田 和幸)

みんなで、砂防工事の現場を再現し LED の保安灯と蛍をつくりました！

大滝たきのみやこども園 5 歳、年長組の川ちゃんです。「工事のために造られた山道を登って現場に行きました。工事の人はすごく高いところで仕事をしてるんだなあ。空高く飛んで来たドローンが、着陸できるのか心配したよ。着陸したドローンの羽を触ることができて良かった。」「紙芝居の山をおさめる、まもる、工事の話はちょっと難しかったけど、大きな台風と地球の温暖化、土砂崩れの怖さについて教えてもらいました。」「電池を箱に+・-間違えずに入れて LED の保安灯を作りました。次に色ペンを使って蛍の絵をかいて色ぬりして LED 蛍を作ったのが面白かったよ。」「出来上がった LED 蛍を大人の人に段ボール箱で組み立てた山や砂防ダムに置いてもらい、電気を消すとピカピカしてきれいだった。」「大きくなったら山を守ったり、工事の仕事をやりたいな。大人の皆さんありがとうございました。」



現場見学会 上空からの様子



段ボールで組み立てた山や砂防ダムと参加した園児たち

この企画は、長谷企画部会長の会社が地元の建設会社から受託した滋賀県多賀町の細谷補助通常砂防工事の現場見学会を部会で支援したものです。

ここから少し裏方の話を。見学会では園児をはじめ地域の人に建設業の仕事を理解していただくために工事現場を再現しています。今回は、様々な大きさの段ボール箱を組み立てての山づくりでしたがこれが大変でした。開催1週間前に園で試験的に組立ててみると園児と同じくらいの高さで、とても高い山にはなりません。本番ではサイズが大きな段ボールを数多く持込み、組立て、積上げて見学会場に似た山容・砂防を作ることができました。他にも「ドローンの旋回の仕方」、「保安灯と蛍で使用する LED 灯のハン

ダ付け」、「雨の恵、大雨の怖さ、砂防のシナリオと絵」などお話ししたいことがあります。又の機会に。園の先生をはじめ建設会社の皆様方のご協力のおかげで、園児たちから感動の声をいただき有難うございました。

(ボランティア 中川 正進)